
高校生幹事長

源綱雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

高校生幹事長

【Nコード】

N4388Y

【作者名】

源綱雪

【あらすじ】

tea cupとの重複投稿です。これからも不定期的に書いていきます。

内容は高校に入ると同時に政治家デビューして、政策に関わっていく少年の物語です。

2009年の総選挙での政権交代を元ネタとして書き始めました。

設定

議員数(選挙前)

衆議院

自由資本	300
公暗	30
自由生命	90
社会義士	10
国民	20
共産	10
無所属	20

参議院

自由資本	140
自由生命	80
社会義士	5
国民	10
共産	7

議席数(選挙後)

衆議院

自由生命	240
社会義士	20
国民	40
自由資本	140
公暗	15
共産	20
無所属	5

参議院

自由生命	1	2	0
社会義士			9
国民	1		1
自由資本		8	9
共産		1	2
無所属	1		

これは小説内の議席数です

永田高校生徒会

緑	4
自資	3
共産	2
無所属	1
初期キャラ設定	

虹	一丸	1	5	主人公	1	1	30	生まれ
虹	寿美子	2	8	主人公の姉（親代わり）	3	3	1	生まれ
豊臣	綱吉	3	5	自由生命党代表				総理の座に就く
石部	ヒロ子	1	5	幼馴染だが、新党で主人公に対抗				
麻	家綱	6	0	自由資本党総裁				選挙前総理
足利	久子	1	8	自由生命党新政調会長				で、桜丘大学新入生
錦	一郎	2	9	自由生命党新国対委員長	4	1	付	生徒会の事情（無所属1）

実は、新入生で何党に入るか決めずに立候補しての当選らしい・

仮入学の時に決めずに入学式で決めるみたい。あの決まりは、入学後に適用されるみたいだ・・・

僕の知らない人だけど・

本当は入学後に政党の離脱もできるんだけど、1週間以内に他党へ入党か、新党届けを出して党を作らなきゃ退学しなきゃいけないんだ。

閣僚名簿

内閣総理大臣 豊臣綱吉35

内閣官房長官 徳川吉保

33

総務大臣 堀田秋良

34

国土交通大臣 郡山清子

社会(党首) 25 交通工学相

厚生労働大臣 吉良秀樹国民 27 保健体育相

経済産業大臣 柳沢秀男

社会 37 金融担当相

外務大臣 前田利一参 34 外国語担当相

財務大臣 荻原利光

参 31 数学担当相

農林水産大臣 切川直人民間 20 自給率向上担当相

環境大臣 天松秀子

32 分類学・生態学担当相

法務大臣 菅原道長

37 拉致問題担当相

防衛大臣 長馬義則

16

文部科学大臣 朝倉道長

27 国語担当相

国家公安委員長 今川光明 31

郵政改革・動植物共同参画担当大臣
(物語上の内閣です)

松平静夫国民(代表)

50

小さき頃

僕の生い立ちは、ある駅前の産婦人科で帝王切開での誕生らしい…。そして、僕は紅葉台校下で4歳頃まで両親と姉と幸せに暮らしていたんだって。

それが、両親の死によって、姉と2人きりになってしまった。それも東京でね。姉の大学が東京にあったから…。
幼い僕を大学生の姉が必死になって今まで育て上げてくれた。

そういえば、最初の頃は学食で姉の先輩からご飯を食べさせてくれたことが多かったような気がする…。その時の会話

『あら、坊や。食べないのか?』

『だって…ママが…』

『ああ、お姉さんね。大丈夫よ。あの子なら、バイト先で食べているわよ。』

『じゃあ…』

『食べても問題ないわよ。子供はそんなこと気にしなくていいのよ。それから11年…』

プロローグ

僕は自分の合格を確認して、姉の車に乗った。姉は衆議院選挙の候補者なので、その応援をしなくてはいけない。自由生命党公認をもらっている。

僕の名前は虹一丸、高校受験を終えたばかりなんだ。姉は純美子っていう28歳。国民と社会の推薦を受けている。

相手候補は自由資本党公認の公暗党推薦の現職39歳。3選を目指している。姉さんの演説

私は衆議院議員になりました暁には動植物共同参画社会の実現に取り組み、高校授業料無料化、郵政民営化見直しを行います”
なかなかのきだつた

その演説を終えると、姉さんは車の中に戻って来て、僕に高い高いをしてきた。

「姉さん、僕子供じゃないんだけど…」

「何言っているの？私が育てたでしょ」

「それはそうだけど…」

と、いう会話をしながら姉さんのペースになつてくるんだよね…

と、その時僕の携帯が鳴った。

「一丸君だね！私共の政党への投票をお願いします。」

そのような電話が何度もある。仮入学の日に生徒会選挙があるとは聞いてたけど…。

僕の入る高校は永田高校。特徴として、生徒会選挙は政党の比例制度で行われる。しかも、票数は1人1票ではなく、点数〓票数となっていて、生徒は全員政党に所属するって決まりがあるんだ…。

そして、仮入学の日…

僕は校内政党「緑」に投票し、校内では、この政党に所属することに決めた。

一方、校外では衆議院・参議院のW選挙が行われている。

姉の結果は当選だった。しかも当選者の中で一番先に決まったんだ。当然、相手は比例も落ちた。そして、政権交代が起こって衆議院で240議席、参議院で120議席を自由生命党が獲得。国民・社会義士と合わせて各院300と140の議席を占めた。

その特番を見てた・・・まさにその時、姉さんの党の代表の会見が流れだした。

「まずは党人事を発表する。幹事長には4月1日をもって永田高校に入学する者を充てる。名前についてはまだ中学生なので、就任する4月1日まで明かさない。政調会長には4月1日に桜丘大学に入学する足利久子、国対委員長には虹純美子を充てる以上」

「ふ〜ん、姉さんすごいね。でも誰なんだろう？幹事長」

「ありがとう、一丸ちゃん。本当に誰かしらね」

そういうと、姉さんは目をそらした。何か隠してるんだろうか…

今、テレビに出てた代表の名前は豊臣綱吉って言って、姉さんを選挙に出した張本人なんだ。僕の姉と何か約束してたらしいけど、まさか、僕が幹事長じゃないよね…

次の日、僕の携帯が鳴った。

「もしもし」

「はい、虹一丸です」

「わしだ、豊臣だ」

「なんででしょうか？」

「ちよつと、党本部まで来てくれ」

何だろうかと思っただけでみると、幹事長を拜命された。姉さんの国対委員長解任も伝えられた。姉さんはその時、当選証書を貰い

に行つてた。

その日の夜・・・

「姉さん、この話知つてたね（怒）」

「確かに頼んではみたけど簡単に通るとは思わなかつたのよ（汗）」

「やつぱり・・・」

『一丸君、男子校に行くのはいいけど、政治家になるのは聞いてないわよ（怒）』

「ちよつと待つてよ、石部さん。僕も今日知つたんだよ」

声の主は幼馴染の石部ヒロ子さんだつた。僕の天敵でもある。

『だつたら、直ぐに報告しなさいよ。それにヒロつて呼んでつていつも言つてるでしょう。』

「そんな呼び方出来ないよ女の子に・・・」

「二人ともそこまでにしなさい。私は明日から国会よ。一丸ちゃん早く寝なさい。石部さんもかえつてちようだい。」

次の日、僕は姉さんに党本部に連れられてきた。

「さあ、一丸ちゃん。今日から新人としての研修があるわよ。頑張りなさい」

「姉さんは？」

「私は国会があるから、この足で向かうわよ」

あつ、そつだよね。総理の指名選挙あるんだよね・・・確か」

「豊臣さんに入れるわ、当然。さあ、麻家綱の辞任が最初に見えるわ。楽しみね。」

姉さんはそういうと僕を残して行つちやつた。

僕も今日の研修頑張らなきゃと、気を引き締めて中へと入つた。

まず、幹事長としての心構えから、研修は始まつた。その前に自己紹介があつた。

「僕は、虹一丸と言います。まだまだ未熟なんだけど、精一杯頑

張って行きます。」

「うむ、頑張れ」

「ところで、おじさんは誰？」

素朴な疑問だったんですけど…

「わしか？わしは、新しく国対委員長に就くことになった錦だ」

「へえ」

なるほど、年に見えるけど、30前なんだ…

ちょうど同時刻…

国民党本部でも、前田利之の研修をしていた。

社会義士党では、夜叉節秀子（秋葉女子高校）の研修をしていた。

国会では姉貴も参加しての研修が終わり、総辞職（麻 家綱内閣）
がなされ、首班指名選挙が行われていた。

衆議院 参議院

豊臣綱吉 303 140

浅野太郎 156 90

（自由資本党新総裁）

浅井長吉 21 12

（共産党委員長）

この結果、わが党代表豊臣綱吉が総理に指名された。そして…
「き」

ちよ、これにてきょうは、散会することをのぞみます」とい
う姉の動議の声にて終わった。（議長・副議長選挙割愛）

その後、姉が迎えに来てくれて、一緒に帰宅した。

「姉さん、動議が上手いね」

「おだてても何もでないわよ」

「ジューズも？」

「まあ、そのくらいなら仕方ないわね」

この日は、久々に姉に甘えられた。

その頃、代表は皇居で総理大臣に任命され、組閣本部を立ち上げ、
方々へ電話をかけていたらしい。因みに、姉の携帯電話にもかかっ

てきた。

「もしもし、わしだ」

「どうなさったのですか。」

「誰を大臣にするべきかのう」

「それは自分で考えて下さい、代表」

「君を大臣補佐官にしようと思っただけだな」

「お断りします。この子の世話があります。」

「うむ、わかった。」

という内容だった。

「でも、組閣に随分時間掛かるんだね、姉さん」

「そりゃそうよ！身体検査もやらないといけないんだから」

「えっ、身長や体重なんかで決めるの？」

「何言ってるの？いい、一丸、身体検査っていうのはスキャンダルの有る無しを調べることをいうのよ。後は、私みたいな事情があるかないかも調べなきゃだしね」

「姉さんのような事情？」

「子育て中とかね」

「姉さんの子じゃないと思うよ」

「4歳の頃から身内は私1人でしょ」

「そりゃあ、そうだし、育ててもらったけど・・・」

「それじゃ、解るわね」

実の姉がいなきゃ児童養護施設に入らなきゃいけなかったらしい・・・

・ そのころ、官邸では...

「国民党の代表には、約束していた郵政担当大臣をしていただく」

「それでしたら、動植物共同参画担当大臣もしていただいては、いかがでしょうか？」

「よい考えである。その方は官房長官に致そう、吉保」

やっと、組閣が終わったらしい...

「あら、明日、所信表明だわ」

「僕は、また研修だけどね」

「一丸ちゃん、新人なんだから当然よ」

「あれ、姉さん初当選じゃなかった？」

「確かに、初当選よ。でもね、政治には、携わる仕事をしてたじやない」

翌日、僕は研修を受けている時間帯に、国会では所信表明演説が行われていた。

「私の内閣では、まず高校無償化と郵政改革を今国会で成立させて、7・8月中に臨時国会を開き動植物共同参画社会実現の為の法律改正を行いたい」（総理）

と、いう内容だったらしい。研修の内容は少しずつ難しくなっている。無事に終わりたいな…

それから、2日後離任式に出て、中学校に別れをつげたんだ。

明日から高校生だ。それと共に政治家デビューだ…

就任

翌日の朝：

「一丸ちゃん、起きなさい。」

「なぐに？、姉さん」

「なぐにじゃないわよ。今日の会見は初仕事でしょ。遅刻するわよ」

「あつ、そうだった」

「それに、クラスも見て来なきゃね」

「学校でするの？」

「当然でしょ」

「姉さんは？」

「付き添いで行くわ」そして学校で…

「虹くん、こつちに来なさい」

「何ですか？」

「こつちに控え室があるから、会見開始迄いなさい」「ところで、

僕のクラスは？」

「会見後に見に行くと良い。中道コースは確かなんだが…」「うん

」

僕にとって一番大事なことだよ。クラスは…

「おはよう。」

「お兄ちゃん誰？」

「俺？俺は新入生の前田利之だが、おまえは？」

「僕も、新入生で虹一丸つていいいます」「で、おまえも何かの就任

会見があるのか？」

「うん 自由生命党幹事長だよ」

「実は、俺は国民党幹事長だ。中道コースと言われた」

同じ頃、秋葉女子高校では社会義士党幹事長就任会見がはじまつた。

『私は、夜叉節秀子です。この高校の新入生よ。今日付で社会義士

党幹事長に就任しました。よろしくお願いね。』

…一方自分達も会見の時間になり、

「はじめまして、僕は虹一丸っていいいます。今日付で自由生命党幹事長に就任しました。この高校の新生で、中道コースに所属します。よろしくお願いいたします。」

「俺は国民党幹事長に就任しました前田利之といいいます。この高校の新生で中道コースに所属します。よろしく頼みます。」会見が終わると、2人でクラス発表を見に行くと、僕の名前があった。

「1組だよ。」

「俺は2組だな。」

その時、後ろから声が…

「国民党幹事長と自由生命党幹事長ね？」

「そうですが、お姉さん誰？」

「私は夜叉節秀子。秋葉女子高校の新生で社会義士党幹事長よ。」

「あつ、党本部に行かなきゃ、2人も行った方がいいよ。」

「じゃあね」その後、党本部に行って前幹事長との引き継ぎを行って帰宅した。「一丸ちゃんの1学期の成績で国会日程が変わってくるから、頑張りなさい。」

「えっ？」

どういうことなんだろう

「臨時国会が、期末試験の成績で10日変わってくるのよ。」

「どこで聞いたの？」

「国会で質問したのよ。」

なんだが自分の能力向上具合で政治日程が変わってくるのは責任重大な気もするんだよね。それはいいとして、引き継いだお金の管理どうしよう…

「口座分けちゃえば？」

「姉さん、僕の考えていることがよくわかったの？」

「だてに親代わりしてないわ」翌日、僕は銀行に行って、新しい口座を開いて、自分のパソコンからメールをした。

献金リストをくれたから楽々終わるんだけど…

<各位 お忙しい中申し訳ありませんが、新しい口座に入れて下さい。>

これがその文面、企業や、団体に送ったんだ。

僕は党の仕事を粛々と行っている。

「そう言えば、後2日で入学式だよな！宿題も忘れない内に済ましとこう」「《…こそ、…けれ…のような法則をなんといい》あつ、これは掛かり結びの法則だ

> A B = D E , B C = E F , A B C = D E F の時、の合同条件は<

これは簡単 二辺とその間の角がそれぞれ等しいだ 等と1日で終わらせちゃった そして…5日の入学式

「本校に入学おめでとう。君たち300人はここで3年間学生生活を送る訳だが、頑張つて欲しい。以上」この校長先生の言葉

各コースの人数 中道 240、右派 30、左派 30

党派人数 緑 220 民主 10 公暗 10 自由資本 20

社会 20 共産 10 人民 10 後のクラスで、宇治先生が「このクラスの者は保健の授業を受けなくて良い。但し、生態学と生物分類学を代わりに受けてもらう。」

へえー、ラッキー保健は僕の唯一つの苦手科目なんだクラスを出ると、前田利之君に声をかけられた。

「おい、虹、今日から与党の会合があるのは知ってるな？」

「それは当然…」忘れてた…

「忘れたとは言わないよな？」

「当たり前^^:じゃないか」

「場所は理科準備室だ 遅れるな。4時からだぞ」4時から会合

「ただ、服装は…私服か。家に帰って着替えようと お気に入りの洋服有るから」

「家に帰った僕は筆筒の中からお気に入りでも大人っぽい物を出して着替え、再び学校へ戻った。まだ2時間以上あるから、図書室で何か読んでみよう。3時半を過ぎて行かなきゃとも思うけど…読んでいる本が面白くて止められないよ。どうしよう…僕はその本を借りる手続きを行って、本を閉じて理科準備室へ向かった。理科準備室では、秋葉女子高校から、社会義士党幹事長の夜叉節秀子さんが来ていて、国民党幹事長の前田利之君を待つばかりだった。「悪い、悪い。調べ物をしてたら遅くなった。」

「「何を調べてたの?」」

「いやあ、この部屋がどこだったか探してたんだ」

「それって、迷子ってことじゃない?」

「そうとも言えるな」

「他所の生徒の私でも迷わなかったのよ」

「そうはいうが、俺も初めてだぜ」

「もつと簡単な場所にすれば良かったね」

「ここで喧嘩されたら困るので中断させた。」

「さあ、会議始めるよ。最初は自己紹介からだ」

「長馬義則だ。中道2年で防衛大臣だ。宜しく」あれ、何で幹事

長以外の人が来ているの?3党の幹事長会合じゃなかった?

「おい、虹、何不思議そうにしてるんだ」

「あのね、長馬さんは内閣の代表として来て下さっているのよ」

「な、なんだ」

「そういうことだったのか!はやくいってよね…」

「さて、今日の内容だが」

「高校無償化法案の成立期限だったわね」

「僕は20日までに成立させたほうがいいと思います。」

「俺もなるべく早く通した方がいいと思うのだが…。夜叉節の意見は?」

「私は、慎重に議論して、25日がいいと思うわ」

「そうだな、夜叉節の党の政策だしな、虹、25日でもいいな？」

「うん。」

「よし、決まりだ。長馬さん、頼みます」

「心得た、閣議でそのように報告しよう」「会合はこのあとすぐにお開きになり、家路についた。」

始動の夜

会合がお開きになり、家路についた。

「ただいま」

「お帰り、一丸ちゃん 御飯食べてね」

「姉さん、ちゃん付け止めて欲しいんだけど…。マスコミに嗅ぎ付けられて週刊紙に載ったら困る…」

「あら、プライベートの時くらい…いいじゃない。公式な場所ではちゃん付けしないでしよう」

「そういう問題？」

「そうよ。あなたは可愛い弟だもの」

「いくら可愛いっていつでも公職にある身なんだよ？」

「あら、呼び捨てはいけないと思っているのよ。それに貴方は、私には永遠に小さな子のような存在よ」

「僕だって…成長しているのに」

「成長は、認めるわ。でも私にはあなたを育て上げる義務があるの。」

「「ごめんなさい、親心子しらずだった？」

悪いな…」と思いその日は精一杯孝行した。

翌朝

翌朝、教室で自己紹介：

「僕は虹一丸と申します。緑に所属します。」
後ろの席から

「虹、君は昨日学校で何の話をしてた？」

「答えなきや駄目？」

「興味あるな」

「政治の話だよ」

「具体的には？」

「トップシークレット」

「なんだよ、つまらないな」

実はこいつが1年での生徒会当選者足利 尚光

「ねえ、所属政党決まった？」

「ああ、民主だ」

ということは：緑と統一会派組むんだろうか？

「学校の生徒会で統一会派はゴメンだ」

「統一会派のどこが不満なの？」

「そういう問題じゃないんだ。批判票を大事にしたいんだ」

なるほど、そんな考え方もあるのか：参考にしよう

「ところで、友達になつて欲しいんだけど：足利君」

「奇遇だな。俺も友達が欲しかったんだ」

「宜しく願いました」

そうして、教室内で初めての友達ができた。友達ができたのはいいんだけど、教室内だけの友達じゃ嫌だ。と、不意に携帯メールが

『昨日はご苦労。来週から、工業仕分けよろしくby代表』そんなメールが入ってきた。

「おっ、総理大臣からのメールか：羨ましいな」

「ただのメールならいいけどね：仕事だったさ」

僕はメールでいつまでにやればいいのか聞いたところ

「大体：15日頃迄にやってくれ」と、返信があった。「ほう、仕事か。そういえば虹は自生党幹事長だったな」

「足利君、一丸でいいよ。自生党幹事長になったのは自分の意思じゃないんだけど、一旦なったら責任果たさなきゃね」「そうか、一丸も大変だな。校内の議席だけであわててる自分とは器が違う」

「なんかすごい理解力あるんだけど…：そういうしているうちにHRは終わり、授業が始まった。」

仕分け

学校の授業が終わると、夜叉節さんから電話が

『虹ちゃん、総理大臣からメール届いたわね?』

「もちろん。ところで、姉さんじゃないのに、ちゃん付ける必要があるの?」

『あら、一目見た時からちゃん付けしようと思っていたわよ。可愛いんだもん。うちの学校で写真を見せたら、弟さん、可愛いついていたわよ。』

「それはおいといて、本題なんだけど、仕分けいつからするの?」

『そうね、明日からでもいいけど、今日からする?』

「早く取り掛かれれば早く終わるよ」

『それもそうね』

「じゃ、前田君にもそう言っておくね」

『頼んだわよ、虹ちゃん』

なんだか、女の人に子供扱いされるんだけど、一応、権力者なんだよね…僕まあ、いいか。工業仕分けの内容はメールに書いてあったな…

『自動車、家電、玩具』

なんだ。それだけでいいのか

僕は玩具は外しちゃおうと思っていたけど、そんな考え方はいけな
いんだね。そして放課後…

「只今から工業仕分けを始める。」

司会はもちろん、防衛大臣

「まず、自動車について仕分けを始めます。」

「私は生産縮小を主張します。明らかに作り過ぎます。機械ラインの停止による品質の向上を求めます」

「異議無し」

実は、補助金もらって、下請けいじめや人切りをしてたのが気に入らないんだよね…「次は、電気機械だ」

「家電は生産縮小しない方が良い？」

「いや、俺は縮小の方向で考えた方が良いと思う」

「僕は、省エネ努力を認めて縮小が落としどころだと思っ」

「外の電気機械についてはどう？」

「防衛大臣に一任します」

「では、家電は省エネの努力を認め、生産の小幅縮小・その他は大幅縮小を求めるということでいいか？」

「異議なし」

「次は玩具だ…」

「僕はまだ、欲しいゲームソフトがあるからゲームは仕分け対象から外しちゃうよ…」

「そんな訳にいかないでしょ!!」

「そうだと、虹。個人的な理由で除外すれば、野党から追及されちゃうだろう？」

「やっぱり駄目か…そりゃそうだよね…」

「生産は縮小なんだか、子供に優先的に供給することにするというの？」

「異議なし」

一方…

その頃国会では高校無償化法案の審議が、文部科学委員会で始まっていた。

「此度の高校無償化法案の要旨は、親の所得に関係なく、学習意欲のあるものが教育を受けられる様にするものである。故に、国公立はもちろん、私立に於いても500万以下の世帯の子息・女は無償で受けられる様にする。」

これは文部大臣の法案趣旨説明

その後、審議が行われて、委員会採決を経て衆議院本会議に送られた。

参議院でも同様の説明・審議が行われて、委員会採決を経て本会議に送られた。

さて、姉さんだけ…予算委員会にいるんだけど、あまり忙しくなく、暇を持て余している。だから、しょっちゅう学校にいるんだ。

「姉さん、仕事は？」

「あるんだけど…あまりにも少ないのよ」

「僕、仕分けが終わったから帰ろうと思ったんだけど、姉さんはどうするの？」

「私も帰ろうかしら、明日本会議だし」

僕も党大会（学校内政党）なんだ。但し、勉強会の別称なんだけどね

そして、翌日の放課後…「おい、虹。保健体育の予習は要らんかったな？」

「うん、代わりの教科をしなきゃだけどね」

「じゃ、それを重点的にしろ」

それで、僕のクラスのみんなで生態学と生物分類学を重点的に勉強した。

その頃国会では…

「与党の幹事長は全員高校生ということだが、それでこの法案を最初に成立させようとしたのでは？」

「そのつもりであれば、成立した後に任命した。」

「それでは、たまたまだと？」

「その通りである」

というふうに、審議している。その夜、幹事長3人で会って、食事を取ってただけ…

「こんな所でお食事なんていいご身分ね!!」

「い、石部さん!」

「虹に何の用だ？」

「そうよ、虹ちゃんに何の用事？」

「まあ、いいわ。？そっちがその気なら、私にも考えがあるわ。覚えてらっしゃい」

ちよつと怖いんだけど…

「大丈夫よ、虹ちゃんは私達が守ってあげる」

「だから、あんな奴なんか気にすんな、虹」

新党・改名

その深夜、あるホテルで石部さんの会見が行われている。

「わたしは自生党を倒すため新党を作ります。党名は日本たちがあれです。」

同じころ…

「私は校内政党内民主の改名を行います。新党名俺たち」

これは足利君の会見

次の日の朝…夜叉節さんからメール

『私達の党名を社会自由党に変更しようかしら』

僕の返信

『いいけど、党首の了解取らないとダメだよ』

『わかったわ、虹ちゃん』

なんだか、なし崩し的に子供扱いされてる…何とかして同年代に見られるようになりたい…

『何で子供扱いするの？』

『決まっているじゃない。外見よ』

よし、子供扱いされるなら…こっちも

『前田君と夜叉節さんってお似合いだね 僕の両親みたい^^』

二人に送信

『おい、虹いきなりなんの真似だ？意識しちゃうだろ』

『いきなり何よ…前田君を意識しちゃうでしょう』

二人の返信です。僕を子供扱いするからお返ししちゃった

「こら、一丸ちゃん。そんなイタズラしないの！まあ、結果的に、その人達を幸せにするかもしれないけど」

「姉さん、ごめんなさい」

「わかればいいわ」

「僕って幼く見られるんだけど…」

「そんなこと…気にしないの。私なんかどうなるのよ…ずっと前から、お母さんと見られていたのよ…」

「そっちは、僕の責任だけど、幼く見られるのは遺伝？」

「そうよ。母が幼く見られたわよ。私と姉妹に見られていたわ」

その時メールが…

『次の仕分け対象は電力・運送・航空だ　by 代表』
なるほど、次も自分たちか…

秋葉女子高校（前書き）

この会だけ、夜叉節さんの目線で書いてみました。

秋葉女子高校

私、夜叉節よ 何故か制服がメイド服なの…ありえないわ。さつさと授業終えて、虹ちゃんの顔を見て、癒されなきや 可愛いんだもの私の党は社会義士党なのよ！だけど、気に入らないわ。義士って古臭くって嫌よ！？名前を考えた人の神経疑っちゃうわ。社会党が前身なのは分かるけど…社会自由党に変更したいわ…でも、公約は良い感じよ 高校無償化は特にね それに、各駅新幹線の特急料金廃止も魅力的よね

私も権力者だから、制服位変えてしまえないかしら

仕分け2

次の日の放課後：

仕分けを行うことにそこには、

「「こんにちは、夜叉節さんの友達です。可愛い虹君を見に来ました。」」

「えっ、夜叉節さん。そんな人いいの？」

「触れない限りは良いと言ってるわ。」

「おっす、夜叉節・虹来てたか」

「「こんにちは前田君」」

「堅苦しいな。下の名前で呼び合おうぜ」

「じゃ、僕は、夜叉節さん・利之君って呼ぶね」

「どうして私だけ名字なの？虹ちゃん」

「女の（人）子を下の名前で呼んだこと無いんだ」

「わかったわ 私は一丸ちゃん・利之君って呼ぶわね」

「おれは、秀子・一丸と呼ぶぞ」

「改めて思っただけど、夜叉節さんと利之君って似合いのカップルだね」

「「きゃー、可愛い」」

何故か変な声が…まあ、いいか

「今日の仕分け対象は電力、運送、航空だよ」

「電力については、原子力発電所を削減、10年以内の全廃を提案したいわ。」

「ついでに、火力やダム発電も削減して下さい。」

「自然エネルギーとして、用水路や川に水車をおいて発電することや地熱、太陽光、太陽熱を伸ばしていこう。」「次は運送だが、現

状維持で」

「「異議なし」」

「次、航空なんだけど」

「空港が多過ぎるわね 削減よ」

「俺も同感だ」

「僕もそれでいいよ」

なんて具合に終わった。

「「秀子、虹君を抱っこしていい？」」

「触らないって約束破るの？」

「「実際に会って、触りたくなつたの」」

「僕、どうしたらいいの？」

「おい、一丸が混乱してるぞ。今日はやめとけ」

利之君ってこんな時頼りになる

「「しょうがないわね」」

「おい、秀子。あいつら二度と連れて来るな」

「一家団欒を壊したくないんだって」

「違うぞ、お前が幼い外見だからだ、一丸」

「二度と連れて来ないわ 約束するわ」

「遅い時間だからどっかに泊まる？」

「いいわね 三人同室にしましょう」

「僕は一人で眠れるよ」

「俺もだ」

「川の字になる？」

「何言っているの？一丸ちゃん。私と利之が夫婦みたいなこと言わないの。」

ホテルで…

「利之、一丸ちゃんは私が守ってあげるわ」

「秀子、俺の方が守ってあげられるぞ」

「じゃあない、二人で守ってあげるか」

法案成立と決算委員会

数日後、賛成多数によって高校無償化法案が成立した。決算委員会では…2年度前の決算のチェックが行われている。

そして、永田高校では、生徒会の解散が行われて、臨時テストが実施される。臨時テストなので国語・数学・理科・社会・英語の1教科を1科目として実施された。僕は500点満点のところ495点だった。英語が95点だった。その後、すぐ選挙され、緑 6 自由資本 1 共産 1 おれたち 2 の結果となった。もちろん、緑に入れたけどね 利之君も緑に入れたらしい 夜叉節さんは…学校違った…その時、秋葉女子高校ではある噂で持ちきりだった。その噂というのは、僕が小学生ではないかというものだった。

夜叉節さんは、その噂を聞いても動揺しなかつたらしい…シヨタコの2人が流したのを聞き流していたんだって。僕は、幼い外見だけど、一応権力者だから、子供扱いされるのは困るんだけど…そんなこと気にならない人が多くいる。自生党の支持率は51%なんだけど 支持理由の半分が僕の外見に由るんだから困るんだ…なんて愚痴っている暇無いんだった。

予定より早く成立したので良かった 国会では今更、2年度前の支出の点検を行っている。そのなかで、色々な無駄が浮かんで来ている。僕は、昨年度の支出の点検を命じられるかもね。姉さんは予算委員会に所属しているはずだけど、決算委員会にも顔を出しているらしい。そこで結構重要な発言をしているし、それがきっかけになって無駄が浮かんで来ているんだ 無駄遣いとしてできたのは、多くは道路・空港の建設や投融資（特に組み立て製造業への公的融資）だった。

僕達が点検を命じられた中で、無駄遣いと指摘したのは、エコカー補助金・減税・高速道路（主に首都圏）の建設・公務員住宅であった。

それを終えて、僕は級友の足利君とショッピングに出かけて、服を
買いに行ったんだけど…

「おい、一丸。お前に似合う服があるぞ。着てみるか？」

「うん」

勧められるままに試着したのがまずかった…よくその服の対象年齢
を見てみると、小学生低学年とある…級友は似合うと言っているけ
ど…

「これ、子供服じゃないか？」

「悪かった、お前の顔を見ると何となく着させてみたくなった？」

「実際に着させることないじゃないか？顔の幼さ気にしてるのに」
その日のショッピングは服を買っただけだった。欲しい服は店員にプ
レゼントと間違われたけど…なんとか買えた

同定

「さて、分類学とは何か？」

「分類学とは、生き物を特徴を元に類似するものをグループ化することだ」

「足利、教科書に上手くアドリブを加えて、良かったぞ」

「有難き幸せ。」

「足利君！すごい」

「さて、今日の授業は植物の同定だぞ」

そう言つて、宇治先生は5種類の枝を並べた。

「さあ、これらの種類を同定しろ」つていう指示が出た…

先ず、僕が手に取つたは、マメとおぼしき枝

細くて小さな葉っぱで可愛いな？

「お前みたいだな」

「足利…？僕をなんだと思っているのさ？」

植物辞典で調べて、ネムだとわかった 次はこれだ

何だろう…マメに葉の付き方が似ているけど…サヤがない。

「一丸、そいつは鬼胡桃だぞ」

「えっ、そうなの？」

「ああ、間違いない。この辞典に出ている」

「あつ、本当だ。どうりでサヤがなかったんだ」

「サヤか…それもマメかどうかの判断基準ではあるな」次は…あれ？木じゃないけど…

「ああ、これは木じゃない草だ」

「先生？」

「気が付いたか。」

「イネ科のオギだろ」

「おいしいな、足利」

「ススキ？」

「当たり前だ、虹」

「やった・当たった」

「あっ、エノキ」

「おっ、正解」

「葉の根元で3つに別れてるから分かった」

「おっ、さくらだ」

「へえー、そうなんだ」

「葉の元にごぶがあるだろ」

「うん」

「それが証拠だ」

「で、さくら属のなんだ。足利」

「そこまでは…」

僕も分からない…

「一番有名な種なんだが？」

「ソメイヨシノ？」

「そうだぞ、足利。ではこれで今日の授業は終わり」

「あっ、虹、政治的には必要性が低い実習だが、これをやることで大物になれるんだぞ」

「わかりました」「これからもこんな風に授業中の様子を紹介できればいいな」

3 党幹事長の休日

僕は休日に洋服を買いに行く。足利君と一緒に行くんだけど、利之君と夜叉節さんも一緒だよ

僕と足利君・利之君と夜叉節さんというペアで買い物をしている。

「ねえ、足利君、大人のズボンが欲しい。」

「これは？」

「こつというのが欲しかったんだ。」

「高いぞ」

「大丈夫 3万円有るから」

一方：

社会義士党と国民党のペアは…

「利之君、この水着似合う？」

「ちよつと待て、秀子。洋服じゃなかったか？似合うけどな」

「買っちゃおう 次は」

「待て、俺の服買わせてくれ」

「あら、利之君の服じゃないの」

「今、明らかに下着売り場に行こうとしてたよな？」

「何のことでしょう??」

あゝあ、誤魔化されているっていう具合に振り回されてる

「ネクタイも買いたいよ」

「一丸、お前、どんだけ買うんだ？」

「これで終わり」

「姉貴さんの監視が必要だな？」

「これを含めて4万円で収まるんだけど…」

だいたい僕もいつも沢山買うわけじゃないよ！！今日は特別だよ

一方、利之君と夜叉節さんは…

「結局、水着しか買わなかったな、秀子？」

「あら、いっばい家に洋服あるもの」

「俺は…沢山買ったから悪かったな…」

「利之君、気にしないでね」

「おっ、ありがとうな」

いい感じだなあ…雰囲気がいい

「幹事長、久しぶり、元気だった？」

「政調会長！？どうされました？」

「なんにも 可愛い幹事長を高い高いしよつと思つたの」

「研究室は？」

「今日は休みよ」

まったく…政調会長まで、僕を幼子にみるんだから…だいたい、政調会長は仕事やっているの？

「なにかしら？幹事長！まさか、私が仕事をしてないって思ったの？仕事ならやっているわよ 党本部でね」

「なら、僕を幼子にみるのやめて！」

僕、権力者なのに…

「ほら、高い、高い」

「満足した？」

「自分の子供みたいだな 一生、放したくない。」

「下ろしてよ！！」

「仕方がないわね…」

やっと解放された

遷移

生態学の基本的な理論としての遷移の授業…

「おい、足利、遷移の2方向を述べよ」

「はい、進行と退行です。」

「うむ。では、虹、進行の中の方向を述べよ!!」

「順行と偏向です。」

「宜しい、2人共」

予習してきたから楽勝

「進行の系列には、何次あるか？」

「3次」

「4次」

「1次」

「2次」

色々でるな…

「2次が正解だ。説明をするぞ。まず、1次遷移は、裸地（何も生えていない土地）から始まる遷移を言う。2次遷移は、元々、植生（極相とは限らない）があつた土地から始まる遷移を言う。」

へえーそうなんだ…

「因みに、進行遷移には、湖・海・池等から始まる水系遷移、湿地から始まる湿性遷移、完全な陸地の裸地から始まる乾性遷移がある。ここはテストにだすぞ」

なるほど…遷移って奥が深いんだ

「これは、基本だ。」

へっ…これで基本…応用はもっと難しいってこと。気を引き締めてかからなきゃ…

「明日はこの遷移を理解した上で、自然の緑を復元する方法論について講義する」

そして、次の日…

パイオニア（先駆種）から途中相種、極相種に行く流れやその種の復習から授業は始まり…

「それでは、自然の復元をする方法論を今日を行う。」

早い話が、先駆種（木：例：ネム、ヤシヤブシ等）から種時きによって自然の回復力の手伝いをする方法論の講義だった。

社会党の改名（前書き）

再び夜叉節さん目線です

社会党の改名

再び、私、夜叉節よ…

今、社会義士党の本部にいるの

所属議員たちと、義士という名前の善し悪しについて話してるの

「15歳の分際で、何を言ってるんだ、君」

「だから、義士って古くさいのよ!!」

「選挙目当てに改名するのは許さん!!」

「何言ってるのよ!!センスの問題なのよ!!」

「支持者にどう説明するんだ!!」

「あら、名前は変えても中身は変えないわよ!!それに幅広い支持者の獲得できるわ」

「それならば、新しい名前の候補はあるのか?」

「社会自由なんて、どうかしら?」

「なるほど、それなら納得だ」

「じゃあ、いいわね?」

「OK」

なんて簡単なことなんでしょう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4388y/>

高校生幹事長

2011年12月18日10時46分発行